

# 産業建設委員会 行政視察報告

平成30年5月7日から9日にかけて、委員5名、当局2名、事務局職員1名で、鹿児島県霧島市、宮崎県日向市、日向市を視察してまいりました。

## ■鹿児島県霧島市

### 【温泉観光の取り組みについて】

平成17年に近隣自治体1市6町が合併して誕生した霧島市は、霧島連山の南西部に位置し、霧島温泉郷や日当山温泉郷など4つの温泉郷を有しています。

この温泉観光地としての魅力を活用し、県内外からの誘客推進のため、4温泉郷スタンプリー「きりしまゆ旅」の実施のほか、企業キャラクターを霧島温泉大使として起用し、企業とのコラボにより情報発信を行っているとのことでした。

ただ、近年の2度の新燃岳の噴火や熊本地震の風評被害などにより、観光入込客数は頭打ちで推移しているとのこと。今後は、ジオパークに認定されている霧島山



鹿児島県霧島市

周辺の自然や歴史文化の観光素材を生かした取り組みをさらに推進していくとのことでした。

なお、市内に立地する鹿児島空港において国際線が増便されたこと、LCCが就航したことなどにより、外国人宿泊者数が増加傾向にあり、特に香港からの宿泊客はこの数年間で約6倍に増加したとのことでした。

## ■宮崎県日向市

### 【1T企業の誘致について】

人口約5万2,000人の日向市は、短期間で10社以上の1T企業を誘致したとして注目を集めています。

そのきっかけは、かつて宮崎県南区最大の商店街だった油津商店街に、かつての活気を取り戻すべく、平成25年度からの4年間で、20店舗を誘致すること

を目標に掲げ、3名の民間人を登用し取り組みだことにありました。2年目までは商店街の現状把握や信頼関係の構築等に追われ、結果が伴っていないとの理由で、日向市だけでなく3名の民間人にも非常に厳しい声が浴びせられたとのことでした。



油津商店街（宮崎県日向市）



しかし、その間の商店街や大学、高校と連携した取り組みにより、商店街の方々にやる気が生まれ、また、情報サービス関連企業との連携による外貨獲得事業の効果により、最終的には29店舗の誘致に成功したとのことでした。

また、1T企業については、企業が企業を呼ぶ形で、現在市全体で12社が進出する結果となったとのことでしたが、誘致成功の最大の理由は強いリーダーシップと行動力であり、行政主導ではなく、事業主や若者を始めた市民が自発的に企画・立案・実施する仕組みづくりに成功したことを挙げておられました。

最後に、1T企業を誘致することが目的ではなく、若年層が雇用の場として求める事務職を誘致し、雇用のミスマッチを解消することにより若年層の人口流出を防ぐことが最大の目的であると述べられていました。

その後、実際に1T企業が立地した商店街や1T企業の職場、働く場が増えたことに伴い設置された小規模保育施設、子育て支援センターなどの視察を行いました。

## ■宮崎県日向市

### 【農産物のブランド化戦略について】

宮崎県は全県を挙げて農畜産物のブランド化戦略に取り組んでおり、視察

した日向市では、地域特産の香酸かんきつ類「へべす」の生産拡大や販売促進に取り組んでいます。

平成22年度には県や生産者、消費者、JA、大学等で構成する「日向のへべす消費拡大プロジェクト会議」（事務局：市ブランド推進課）を設立し、ファン倶楽部の立ち上げやSNS、メディア等を活用した情報の「拡散」、各種イベントへの参加などの実施により着実に知名度・販売実績ともアップしているとのことでした。

「へべす」の特徴としては、かぼすやすだちなど他の香酸かんきつ類と比較しても機能性成分が多く含まれていることから、今後の臨床試験の結果次第では「機能性食品」としての販売も視野に入れているとのことでしたが、その一方で、皮が薄く長期の冷蔵保存が難しいため、品質を維持しながら生産量を増やし、安定供給をはかるとともに、新たな販路の開拓が課題であるとのことでした。

## ■視察を終えて

今回の視察は農産物のブランド化や温泉観光地としての取り組み、企業誘致について大いに参考となるものであり、今後の委員会活動に役立てたいと思います。



宮崎県日向市